

出 会

い

き

い

き

ふるさと

凶

鑑



「気軽に声をかけてくださいね！」

安平町在住 久保 あゆみさん (27歳)



「気軽に声をかけてくださいね！」今年四月から町の保健師として勤める久保さん。

ほかの町で臨時保健師として働いていましたが、本町の保健師募集を知り、応募、採用となりました。現在は、隣町・安平町にある実家から通勤しています。

看護学校での学習や実習などを重ねていくうちに、地域保健について関心を持つようになり、保健師への道に進みました。

現在は、母子保健を中心に担当しています。この二カ月間で、「大家族が多いなあ。家族だけじゃなく、隣近所や友達など、人と人とのつながりが強くて広いなあ」と思いましたね。でもその反面、ほかの町から嫁いでこられた若いお母さんなどからは、『みなさんのつながりが強くて仲が良いので、よそからくるとなかなか入りづらくて…』

というような悩みも抱えているみたいです。そんな悩みが少しでもなくなるような手助けができればと思っています」と、すでに保健師魂を発揮している様子です。

このマチの印象は「商店街の街並みが、統一感があつてきれいですね。人も優しい感じがします。職場でも良い先輩たちに囲まれて、毎日楽しく過ごしています」。

休日は友人と遊びに出かけることが多いようで、昨年はファームレストラン巡りにはまっていたそうです。「おいしいものを食べるのが大好きです。食べるために生きてると言っていにくい！」：華奢な体からは想像できないような話です。

「少しでも早く町に慣れて私のことも覚えていただけたらと思います。そして、気軽に相談してもらったり声をかけられるような保健師になれるよう頑張ります」と笑顔で抱負を語っていました。

私の大切な家族

ピーコ ♂ 8歳 (シナガチョウ)
 ナナ ♀ 3歳

豊 沢 (ルーラル) 竹 内 護 さん家族



ご主人が抱いているのがピーコ、奥さんの方がナナ

出身地の網走管内置戸町の友だちが竹内さんのお宅に遊びに来た時に「こんな環境のいい場所だからガチョウを飼ってみたら」と薦められ、平成11年からガチョウを飼い始めた竹内さん夫妻。

奥さんのトモ子さんは「初めのうちはあまり関心がなかったんですけど、いつの間にかのめりこんでいました。『♪グウァグワァ』と一緒に童謡を歌ってくれるんですよ」と目を細める。

今年の5月、小川で遊ばせていたところ、キツネにナナが襲われ、ピーコが命がけで助けたという仲が良いつがいのガチョウ。

「ピーコとナナは私たちの宝物。家族以上にかわいい」と夫婦顔を見合わせて笑っていました。

本

私の出会った素敵な本

「天涯の船」

玉岡かおる／作

新 町 荒 木 裕 子 さん

山口県出身の荒木さんが紹介してくれた本は、玉岡かおる作「天涯の船」。

3年前里帰りの時に、小樽―舞鶴間のフェリーを利用することになり、船の中で読む本を青少年センター図書室で探していたところ、船の文字に引き寄せられて選んだ「天涯の船」。

「運命の荒波に翻弄された男女の物語で、涙がこぼれる場面もある内容ですが、31時間の航海を退屈することなく過ごすことができました。感動的で忘れられない本ですね」。

町が行っている埋蔵文化財発掘事業の作業員として、昨年からは働いている荒木さんは、現場への行き帰りのバスの中やお昼休みに本を開いて読むのが習慣と言います。

「森瑤子さんや宇野千代さんなど女流作家が書いた本をよく読みます。ノンフィクションものも好きですね」。

